

4. 優先度の設定

・見積りした危険性又は有害性と優先度の判定基準 例

○リスクの見積り(乗算法) 例

可能性の度合	軽度 軽症 不休災害	重大 休業災害	極めて重大 死亡・障害
ほとんど起こらない	1×1=1 レベル1	2×1=2 レベル2	3×1=3 レベル3
たまに起こる	1×2=2 レベル2	2×2=4 レベル3	3×2=6 レベル4
かなり起こる	1×3=3 レベル3	2×3=6 レベル4	3×3=9 レベル5

○記号化の見積り 例

可能性の度合	軽度 軽症 不休災害	重大 休業災害	極めて重大 死亡・障害
ほとんど起こらない	○○ レベル1	○△ レベル2	○× レベル3
たまに起こる	△○ レベル2	△△ レベル3	△× レベル4
かなり起こる	×○ レベル3	×△ レベル4	×× レベル5

・見積りを基にした危険性又は有害性の評価(5段階)

優先度 [リスク レベル]	リスクの見積り		評価	判定
	数値	記号		
レベル5	9	××	極めて大きい	早急に対策が必要 他の方法に回避する
レベル4	6	×△、△×	かなり大きい	抜本的な措置が必要
レベル3	3,4	×○、△△、○×	中程度	計画的な改善が必要
レベル2	2	△○、○△	かなり小さい	改善が必要
レベル1	1	○○	極めて小さい	状況により改善が必要

5. 危険性又は有害性の評価及びリスク低減措置の検討、実施について

危険性・有害性を事前に評価し、優先度《リスクレベル》に応じて、除去・低減対策を立て、検討し実施する

低減策の検討にあたり、リスクレベルに対する優先度を示す低減策の検討基準を決めておくことが必要である

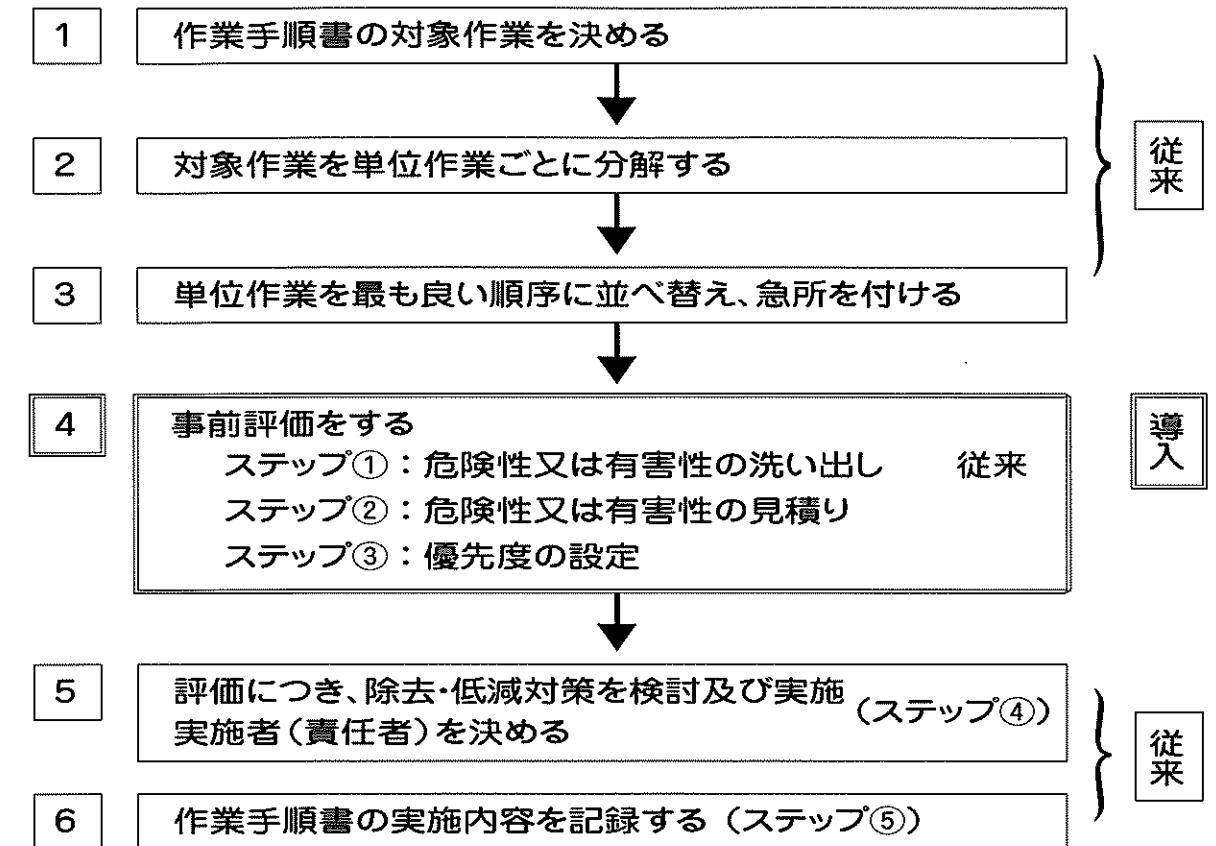
- ・危険性又は有害性を盛り込んだ作業手順書の作成+危険予知活動における作業員に対しての指示、指導、確認
- ・労働安全衛生マネジメントシステムを取り入れた元請会社と安全管理工程表等での打合せ

6. 記録

リスクアセスメントを取り入れた作業手順書を標準手順書として記録に残し、定期的に見直し、より良いものを作成して活用する。

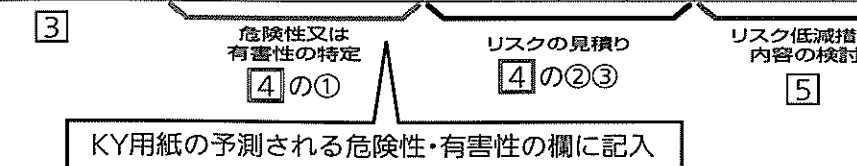
3) リスクアセスメントを活かした作業手順書

作業手順書にリスクアセスメントを活かし、「危険性又は有害性」「リスクレベル」「リスク低減対策」を示すことにより、安全作業の向上がはかれる。



リスクアセスメントを活かした作業手順書例

作業内容	天井配管作業									
人員	5名	材料	鋼管継手 支持金物							
使用機械	ガス溶接機 可搬式作業台	保護具	保護帽 安全帯							
使用工具	ハンマードリル カッター	資格	ガス溶接技能講習修了者							
作業区分	番号	手順	急所	危険性又は有害性	の可能性	重篤度	評価	優先度	リスク低減対策	実施者
本作業	1	可搬式作業台の点検	1 脚部の破損はないか	●破損により昇降中転倒する	2	3	6	4	ゆがみ、伸縮を目視確認	職 長 作業員
	2	可搬式作業台の設置	1 床の段差確認	●床の段差があると作業台がガタつき転落する	3	3	9	5	最下段に足を乗せガタつきを確認	職 長 作業員
	3	可搬式作業台を昇る	1 作業台に向かって一歩ずつ 2 手がかり棒を持って	●足を滑らせ転落する	3	2	6	4	昇降は台に向かって一歩ずつゆっくり	作業員
	4	配管のインサートスリーブを確保	1 施工図の確認 2 不足分はアンカーを打って	●ハンマードリルの反動で手首をひねる	2	2	4	3	ハンマードリルをしっかり持つ	作業員



KY用紙の予測される危険性・有害性の欄に記入